

オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会
(第 24 期・第 12 回)

議事録

1. 日時 令和元年 12 月 26 日 (金) 10:00-12:00

2. 会場 国立情報学研究所 20 階講義室

出席者(五十音順、敬称略): 相澤清晴、安達 淳、喜連川 優、木村 学、
久留島典子、澁澤 栄、高木利久、林 和弘、引原 隆士、村山 泰啓、
渡辺美代子

オブザーバ参加: 山地 一禎 (NII)

3. 議題

1. 前回議事録確認
2. 情報提供 (高木委員)
3. 提言内容検討
4. その他

4. 配布資料

- 資料 1 提言「オープンサイエンスの深化と推進に向けての提言」(案)
- 資料 2 24 期末における意思の表出等の発出スケジュール
- 資料 3 日本学術会議主催学術フォーラム企画案追加募集 (令和 2 年 4~6 月開催
予定分) について (検討依頼)

5. 議事

1. 引原副委員長から、本日の資料と議事について説明があり、引き続き今後の作業日程について意見交換し、4 月中に提言の案を用意するという計画で進むこととなった。
2. 高木委員から、「生命科学分野におけるオープンサイエンスの動向」という題で生命科学分野の状況報告があり、その後意見交換を行った。主な点は以下の通り:
 - 生命科学分野のデータは爆発的に増え、多くのセンターが数十 PB 程度のデータを保有している。ヒトゲノムも直に 10⁹ 人分くらいになる。論文も 3000 万件に及ぶ。
 - 我が国でも長く DB の統合事業が行われてきて、現在 NBDC と ROIS の DBCLS の二カ所が我が国のデータベースセンターになっている。
 - 米国のゲノム解析ではデータのみならず解析ツールも提供されている。クラウド活用やスパコンとの連携も行われている。
 - データの制限公開のルールについても国際的な調整が行われようとしている。
 - 世界的に見て、大規模なデータ収集と共有プロジェクトが進行中である。分子レ

ベルのデータからフェノタイプも含めたデータへと広がっている。また時系列データの収集も重要である。研究者の認証サーバやサンプルの越境問題もある。

■ NIH のデータを公開するという動きが新たに出ており、注目すべきだ。

3. 提言の構成について、資料 1 の目次に沿って分野別、執筆担当など、様々な面から検討した。
4. （その他） 引原副委員長から学術フォーラムの開催について、提言を出す 6 月上旬を考慮して 5 月 27 日以降に設定したい旨の提案があり了承された。また、提言の原稿の長さや提出の締め切りについて、次回会合を 2 月後半から 3 月にかけて開催することを前提に、調整を引原副委員長に一任した。

以上